

大学生による授業目的以外での授業中の携帯デバイス使用、1日平均 11.43 回 (1月 26 日)

ネブラスカ大学リンカーン校 (University of Nebraska at Lincoln) ジャーナリズム学准教授のバーナード・マッコイ氏 (Bernard R. McCoy) は、大学生が授業中に注意力散漫となる原因に関する報告書「授業中のデジタル機器による注意力散漫 フェーズ II ～学生による授業目的以外での授業中のデジタルデバイスの使用～ (Digital Distractions in the Classroom Phase II: Student Classroom Use of Digital Devices for Non-Class Related Purposes)」を発表した。26 州に所在する 4 年制大学に在籍する学生 675 人からの回答に基づいて作成された本報告書によると、大学生が授業中に授業以外の目的でデジタルデバイスを使用する回数は、1 日当たり平均 11.43 回で、2013 年に同氏が実施した同様の調査時の 10.93 回を上回ることが明らかになった。同報告書によると、学生が授業中にこれらのデバイスに注意を傾ける理由として、約 63% の学生が繋がりを保つためと回答した一方で、ほぼ同じ割合の学生が退屈のぎと回答したという。その他では、関連授業のための作業 (46.4%)、非常事態に備えてのモニタリング (37.1%) などが理由として挙げられている。また、授業中の携帯デバイスの使用に関しては、「授業から注意をそらせることなくデバイスの使用が可能」「いつでも好きな時に使用できるようにすべき」などといった理由から、約 90% の学生が授業中のデバイス使用を禁止すべきではないとしており、「注意力散漫の原因となる」「デバイスに注意を傾けずにはいられなくなる」などの理由で悪影響を強調しているのは少数となっている。

なお、本報告書は、<<http://en.calameo.com/read/00009178915b8f5b352ba>>から閲覧可能。

Inside Higher ED, Digital Distractions

<https://www.insidehighered.com/news/2016/01/26/study-use-devices-class-nonclass-purposes-rise>